

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪教育大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカキョウイクダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127110107861
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	教育コラボレーション演習
	学部・研究科等名	教育学部教育協働学科
	担当教職員名・役職	吉原 孝・教育協働コーディネーター
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	331
	受入企業等数	80
	受入企業等名	図書館・博物館、ビッグバン、少年自然の家、学習支援教室、子ども食堂、就学前教育・保育施設、学校、セレッソ大阪、地域の芸術祭、音楽・演劇ホールなど
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ		
11.その他		
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	各演習先に対し学生の受入を依頼をする際、本演習は「地域の子どもたちへの教育や生活を直接的・間接的に支える様々な現場に本学の学生が赴き、年間30時間の教育協働学習(サービスマーケティング)を行う」こと、加えて「この活動を通して、他者と協働しながら子供たちの健やかな成長をサポートするスキルを身に着け、社会の様々な場面でキーマンとなって広く教育を支援していくような人材の育成を目指す」という趣旨を十分理解していただき、活動内容を考慮していただいている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している
		4.当該インターンシップは、必修科目として実施している
		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年	
	大学 学部4年	
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	

	2-5.上記回答内容に関する詳細	教育学部教育協働学科3～4年次を対象、専門教育科目として、原則として前年度の2月から当該年度の1月までの間に、30時間の活動を行い、2単位を付与する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前指導Ⅰ（受講対象者全員に対して行う） ・「教育コラボレーション演習」の概要と意義に関する講義（20分） ・先輩からのメッセージ（20分） ・演習に係る申し込みから活動終了までの流れ（40分） 事前指導Ⅱ（受入先ごとの担当教職員から指導） ・受入先の特徴や事前に学んでおくべきこと、心構え等を指導 ・受入先担当者への連絡方法を伝える（学生自ら、受入先面談の日程調整をさせる） ・演習活動中の注意事項や、緊急時の連絡体制を再確認
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事後指導（学生ごとの教育コラボレーション演習指導教員から） ・学生が用意した「演習前・演習後アンケート」、「出席表（活動日時を記録し受入先の確認署名）」、「活動日誌」を参照しながら、活動内容や活動を通して得られた気付きなどについて報告を受け、適宜指導	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	・必要に応じ、受入先担当教職員が演習活動中の受入先を訪問し、学生の活動の様子を視察するとともに、受入先の担当者に活動状況などを伺う。 ・演習活動中にトラブルが発生した場合は、受入先担当教職員と教育コラボレーション演習指導教員がともに対処する。	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている	
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み		

要素④	4-3.上記回答内容に関する詳細	<p>事前アンケート（演習希望先を第3希望まで登録させる際に入力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育コラボレーション演習で学びたいと思うことを複数選択、その他自由記述 <p>事後アンケート（演習終了後入力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を複数選択、その他自由記述 ・演習を受けて、各項目ごとに該当するもの（そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・思わない）を選択
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
要素⑤	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	受入先の活動に合わせ、連続5日間（1日当たり6時間）という形態をはじめ、毎月第3土曜日3時間の活動（10か月間）や、子どもたちのキャンプの指導補助（2泊3日で30時間）、イベント準備のための不定期かつ長期間の活動など、多岐にわたる。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	ほとんどの演習受入先での活動は5日間以上であるが、受入先の活動により様々である。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・受入先の要望等をお伺いするためのアンケートを実施 ・受入先担当教職員が適宜個別に受入先を訪問するなどし、趣旨を理解いただき活動内容などに工夫を凝らしていただいている。（例：保健所が本校学園祭で「薬物乱用防止啓発ブース」を設けていたが、コロナ過で学園祭が中止されたため、「薬物依存症等に関する啓発活動補助」として動画作成（出演・撮影・編集）を演習活動として実施 	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/practice/collaboration.html	
問い合わせ先	大学等名	大阪教育大学
	担当部署名	学務部教務課教育実践支援ルーム
	担当者役職名	教育協働コーディネーター
	担当者氏名	吉原 孝
	電話番号	072-978-4035
	メールアドレス	epsroom@cc.osaka-kyoiku.ac.jp